令和８年度三重県地球温暖化対策総合計画推進委員会　概要

日時　令和８年10月14日（水）　15：00～16：30
場所　オンライン（Zoom）
出席者　赤堀委員、浅野委員、笠井委員、川方委員、髙橋委員、多森委員、新原委員、
吉田委員

委員からのご意見（要旨）

・現行の三重県地球温暖化対策総合計画の34ページにZEBに関する取組が記載されている。四日市市においてもZEHの補助金を出すなど推進は行っているが、三重県においても計画の改定を検討するなかで盛り込んでいってはどうか。
・今後、増加が見込まれる太陽光パネルの廃棄に関することも計画に記載されてはいかがか。また、三重県におかれては、太陽光発電施設の適正導入に係るガイドラインを令和８年４月に改定されたところであるが、計画のなかに位置付けていくのか。

・事業者による自主的な温室効果ガス排出削減取組の促進のなかで、優良事例の横展開は、他の事業者の役に立つことから、ぜひ進めていただきたい。
・経済産業省では、サプライチェーン全体の省エネ・脱炭素実現に向けたサプライチェーン・チームアップ事業を実施している。
・全国で募集したにもかかわらず、東海北陸地域から採択された企業が多いことから、この地域のTier上位の企業にこのような考えがあるのだなと、これがこの地域の特徴だと思うので、三重県がサプライチェーンに対する脱炭素経営支援を行うのは時節にかなった取組である。

・三重県商工会連合会女性部連合会で年に数回研修会を実施しており、三重大学の立花先生に気象学に関する講演をしていただく機会を作ることができ、会員の方々も危機感を覚えていた。女性部連合会でも研修会を年に数回開催しているので、三重県にもお越しいただいてアドバイスをいただければと思う。
・小規模、零細企業が大半であるので、照明のLED化であったり、省エネエアコンへの買い替えであったり、小さなことの積み重ねだとは思うが、脱炭素経営について具体的にどうすればよいのか知識をいただける機会を作っていただきたい。

・運送業者は、中小零細が非常に多いこともあり、設備の更新が非常に重荷になっている。EVトラックは航続距離が短いことや、積載量に制限があり小型の集配に限られ、それは大手の運送業者が取り組んでいるため、地元の運送業者にはほぼ導入が進んでいない。
・トラック運送業界は、輸送の効率化を図るため、荷主と一緒に運送事業者が取組を始めたという、まずは第一段階になっているわけだが、進めていかないといけない。

・一般消費者については、宅配の再配達をゼロにということで、かなり宅配ボックスの設置も進んできていると思う。こちらについても、引き続き県の協力を仰ぎたい。

・緩和策については、再生可能エネルギーの導入や電動車化、建築物の断熱化といった非常にコストがかかり、一旦ストックになるとなかなか変えられないので、中長期的な対策が必要になってくる。住み替えや買い替えのタイミングでの取組の推進がコストもかからず効果的であると思うので、このような視点での緩和策の推進をご検討いただきたい。

・県がどういうところを有効に活用して太陽光発電施設の設置を進め、森林への太陽光パネル設置はより厳しく規制していくかが、本来的な意味での温室効果ガス排出削減であるように思う。
・樹幹被覆率について、緑地をどう設定していくかという話になろうかと思うが、市街地の樹木が大きくなりすぎて、それが悪影響を及ぼすことも多くある。樹木が都市の温度を下げる役割はあるものの、どういう樹木をどう配置し、どう管理するかというところまでご検討いただくとよい。

・中小企業向けの脱炭素経営支援について、県レベルだとエリアが広いので難しいかもしれないが、商工会の皆様や企業に直接お声がけをする等、企業への働きかけにより成果が広がると思うので、ご検討されたい。
・事務事業について、2027年末に蛍光灯の製造、輸出入が終了するので、その先を見据えて計画的な導入をお願いしたい。

・三重県商工会連合会様からご紹介のあったとおり、地球温暖化や気候変動について知る機会を増やすことが大事だと思う。気象庁が発表する防災情報が５月に新しくなり、その周知のために津地方気象台では要望があればいつでも講演等を行うとされている。このように、知る機会を提供されてもよいのではないか。
・「みえデコビルダーズ」は、楽しくゲーム感覚でエコ活動をシミュレーションできるコンテンツだと思う。まだ存在が周知されていないように感じるので、ぜひ多くの県民に周知していただきたい。

・促進区域に関して、資料に「ホットスポットみえ」が掲載されているが、三重県には他に「サシバ」と「ヒメタイコウチ」のゾーニングマップがある。これらは、単にサシバやヒメタイコウチを保全するためのマップではなく、両種がそれぞれ生物多様性の高い里地と湿地の指標となる生物であることから、生物多様性保全上重要な地域であることを示すものである。促進区域の検討にはこれらも考慮に入れることが望ましい。
・樹冠被覆率の高さは、ヒートアイランドを抑制し、人々の健康を守る上で重要な意味をもつ。これまで街路樹は、管理のコストや倒木のリスクなどのデメリットの面が強調されることはあってもメリットが重視されることはあまりなかった。街路樹には緑陰の効果があり、

路面の温度上昇を抑制する機能があるが、その効果は樹冠被覆率を高くすることで大きくなる。樹冠被覆率を高めることで路面の温度上昇の抑制と人々が受ける熱ストレスの緩和にどれほどの効果があるのか等について可視化し、メリットを丁寧に説明することが重要である。

・県域の温室効果ガス削減について、企業や県民による努力も重要だが、海や山の植物による二酸化炭素固定も重要。三重県の山や海を豊かにすることにより、二酸化炭素を固定する視点での取組をご検討されたい。
・脱炭素経営について、GX に取り組まれている会社を県民に知っていただくよう、三重の企業を応援することが、巡り巡って若者の県内定着につながるのではないかと考える。
・みえデコビルダーズについて、このコンテンツだけでなく、記憶に残りやすいよう併せて下敷きやファイル等もセットで展開されてはいかがか。

・計画の進捗を図れる指標があって、毎年度振り返ることが 2030 年度目標達成につながるのではないか。
・区域施策における働きかけについて、二酸化炭素排出量が多く影響の大きい事業者を対象に働きかけを行うことが現実的である。
・脱炭素経営について、カフェテリア方式での支援をされているところであるが、段階を踏んでステップアップしていただけるように示されてはいかがか。
・アンケート結果によると、デコ活や適応アクションの認知率が低いようだが、言葉よりも身近な取組が実はデコ活や適応アクションにつながっているというアプローチが重要。

・再生可能エネルギーを増やす必要があることは認識しており、増やすための検討も進めている。導入にあたっては、経済性と環境価値を両立させることが重要であるが、新たな電源を導入しようにも、当初の想定よりも採算性が合わなくなることがある。このようななか、どのように再生可能エネルギーを確保していくかが課題。